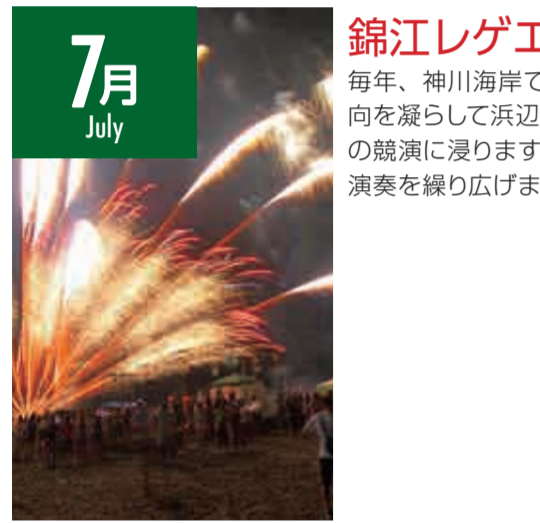




4月 April
花瀬公園まつり
 毎年4月第一日曜日に花瀬川石畳で開催されます。歌謡ショーやキャラクターショーなどの数多くのイベントで盛大に催され、町内外からの多くの人出で賑わいます。広い川床の石畳一角が会場になり、露店が立ち並び、地元特産のお茶や数々の特産品が販売され、祭りを盛り上げます。ツツジや桜など石畳一帯の自然景観と祭りが一体化し、風情ある祭り気分を満喫できます。



6月 June
照葉樹の森 サイクルジャンボリー
 全国でも屈指の自転車レースで錦江町城元から照葉樹の森までの区間（距離約29km、高低差約700m）で盛大に開催されます。



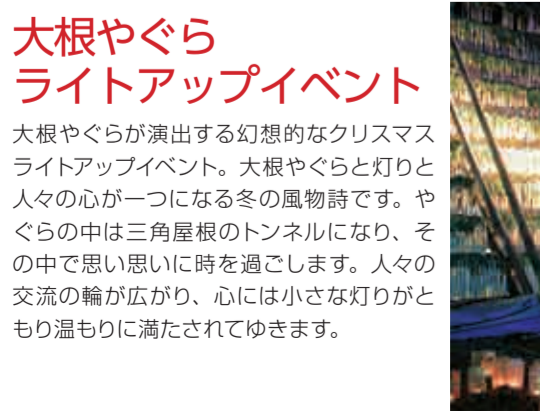
7月 July
錦江レゲエ浜まつり
 毎年、神川海岸で開かれる海辺音楽祭「レゲエ浜祭り」。趣向を凝らして浜辺を彩り、訪れた人たちは音楽と夕陽と灯りの競演に浸ります。鹿児島市や鹿屋市のレゲエバンドが熱い演奏を繰り広げます。



8月 August
やまんなか音楽会inはなせ
 花瀬川を舞台に繰り広げられる、壮大なイベント「やまんなか音楽会 in はなせ」。光と水と音の共演に癒しを求める人たちが「やまんなか」すなわち「山の中」へ町内はもとより、県内外からも大勢詰めかけ、虫の音しか聞こえない静かな山あいの地域は2日間だけ賑やかな真夏の夜へと変じます。



12月 December
大根やぐら ライトアップイベント
 大根やぐらが演出する幻想的なクリスマスライトアップイベント。大根やぐらと灯りと人々の心が一つになる冬の風物詩です。やぐらの中は三角屋根のトンネルになり、その中で思い思いに時を過ごします。人々の交流の輪が広がり、心には小さな灯りがともり温もりに満たされてゆきます。



無形文化財(郷土芸能)紹介
■神舞い
 河上・洲之上・旗山三神社には霧島舞い、鬼神舞い、四人鬼神、立ち舞い、田の神舞い等昔は四十八種の舞いが行われていたらしい。これらの神舞いは神社の鳥居建てや例祭などに奉納されていたが、最近あまり行われていない。これらの神舞いの時は、服装としては陣羽織のようなものに袴をはき、白足袋を着用、独特の面をかぶって、太鼓、笛、鐘の神楽に合わせて自分で歌って舞う。現在は旗山神社に保存会ができて伝承されている。



■宿原地区棒おどり
 昔から宿原、池田地区に伝えられているのが、しばらく途絶えていたものを、宿原の有志の方々や宿原小学校児童が古老や壮年者の手ほどきを受けて伝承されている。踊りは人数に制限はないが、四人が一組になって服装は白浴衣、たすき、はちまき、きゃはん(脚絆)、わらじ、手甲。道具は約一・二mの棒の先に刃渡り十五cmナタのついているものと約六十cmのカマを用いる。二人がナタ、二人がカマを持って踊る。ノボリをたてるのが普通である。踊りの場はほとんど町や校区、区の祝い事の折り等で、踊られる。踊りは一回が約五分、唄い手は三、四人。踊り手は歌の合い間に サツ、サツ、サツ、アレハンソイン、サツ、サツ、サツ と気合を入れる。歌の文句は
 一、おせろが山は 前が大川
 一、山太郎がねは 川の瀬に住む
 一、焼け野のきじは 丘の瀬に住む(宿原原英雄氏の説明による)

■銭太鼓
 約二百年前から鳥浜の諏訪神社秋祭りに翌年の豊作を祈願し踊り続けられてきた。現在は鳥浜子ども会及び神川小学校で取り組まれ、現在まで伝承されている。踊りは長さ三十cmの竹筒のなかに硬貨を入れ、この竹筒二本を持って座って踊る。歌は一定しないがいろんな歌に三味線や太鼓に合わせて踊る。(歌は現在八木節や安木節が使用されている。)



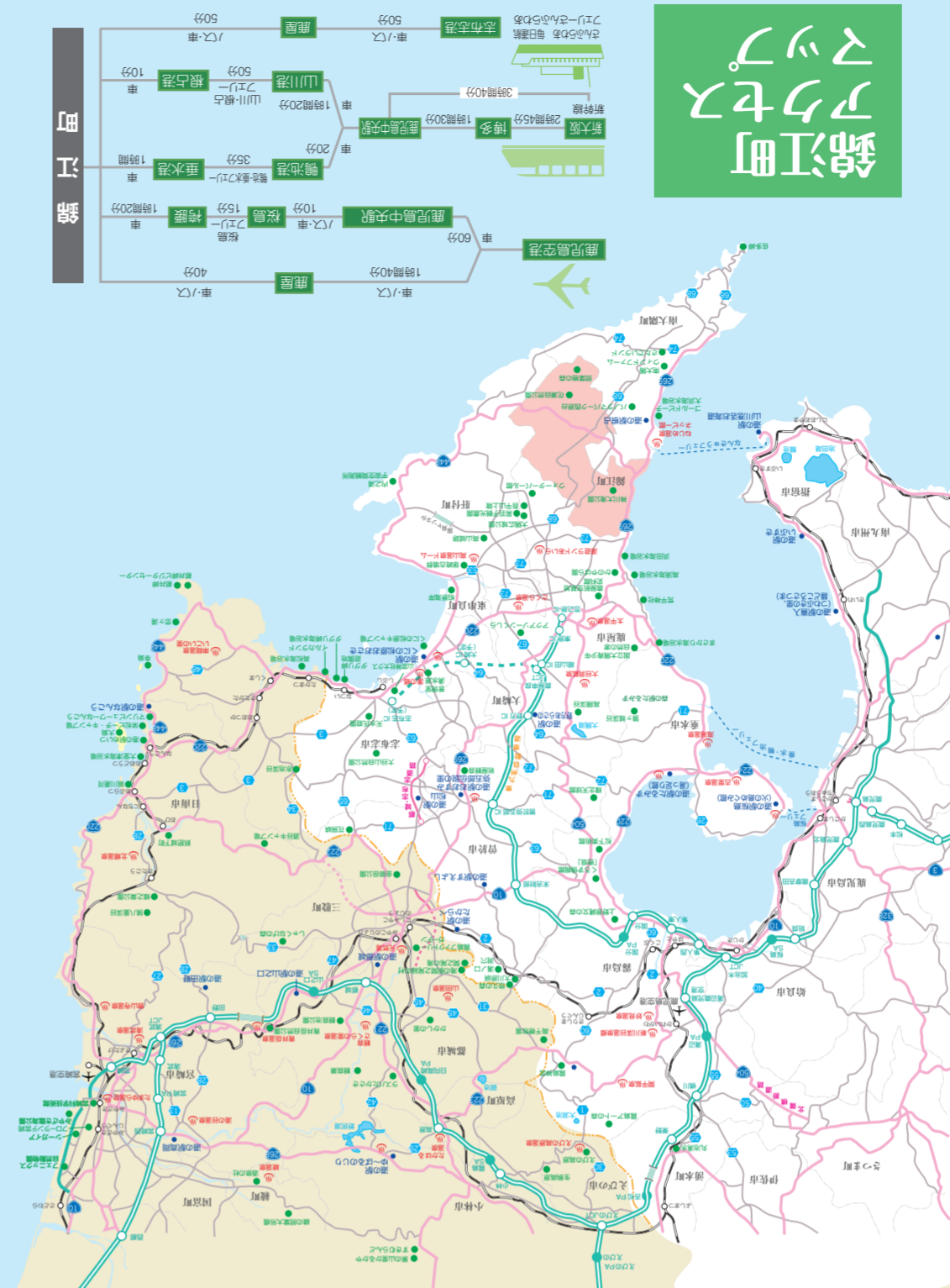
■薩女おどり
 女の子の踊りである。服装はカスリの浴衣、陣笠をかぶる。約四十五cmのナギナタを右手に持ち、いっちゃせん(一文銭)を針金にくさったものを左手に持ち、ガラガラ音をたてて振りながら踊る。四人一組で、歌は棒踊りと同じ。二列に並んで向き合い四人が交錯しながら踊る。明治時代から宿原校区に伝わったといわれ、現在は宿原小学校と婦人会で伝承されている。おはやしは踊り手が次のように入れる。
 ○サーサーサッ
 ○チョイ チョイ チョイ チョイ
 ○ソイノ ソイ ソイノ ソイ ソイノ ソイ ソイ (以下略)



■木遣り
 町内の各神社鳥居曳き、鳥居建ての歌に木遣り歌と木起こし歌がある。木起こし歌は段中野区、段平治氏宅に代々伝わり、鳥居曳き、鳥居建ての場合は段家の当主がまず歌うことになっている。また、木遣りの(二)の歌は船の進水式にも歌う。歌詞は
 1 祝いもそぞ 祝いもそぞ ホイ 何々さあまを祝いもそぞ
 サア エンヤサア アエンヤサア
 エンヤサアヤツラサア ハノエー
 2 動かんどう 動かんどう ホイ 白根が生えたか 動かんどう
 ホイ エンヤサア エンヤサア ソツラサア ハノエー
 3 伝言す 伝言す ヨカニセ見かけて デンゴンサー
 サアエンヤサア エンヤサア エンヤサア
 サツラサア ハノエー (以下略)



■上柴立棒おどり
 この踊りは、鳥津の殿様が士気を高めるために、踊らせたものであります。本来、田代地区には、柴立流・猪鹿倉流・山下流があり、踊りの内容は三様です。上柴立棒おどりは、戦中戦後を経てしばらく途絶えていましたが、昭和57年12月(1982年)から伝統文化の伝承のため棒おどり経験者等が集まり「上柴立棒おどり保存会」を結成し、昭和58年4月4日に若宮神社奉納記念で復活しました。おどりは、集落の青年が四人ないし六人一組で集団をつくり、浴衣、たすきがけに白鉢巻、手甲、脚絆、草鞋をつけ、勇ましい姿で六尺棒、三尺棒、なぎなた、鎌などを激しく打ち合わせておどります。現在では、田代小学校5・6年生が伝統芸能を学ぶため、上柴立棒おどり保存会の方々にご指導いただき、町内の主要行事等で上柴立棒おどりを披露しています。



錦江町文化財マップ

錦江町教育委員会
 〒893-2302 鹿児島県肝属郡錦江町城元918
 ☎0994-22-0517

■神川大滝
 神川大滝は、高さ25m、幅30mの大迫力の滝です。滝壺近くまで行くことができ、長い年月を重ねた造形に圧倒されます。また、高さ68mのつり橋もあり、壮大な大自然を真下に觀賞することもできます。



■神川海岸
 海沿いには、桜島、開聞岳を望むことのできる場所が神川海岸です。夕暮れ時には対岸に沈む日本一と称される美しい夕日を見ることができます。

■花瀬川
 花瀬(はなせ)は、錦江町を流れる雄川(別名/花瀬川)の川面を中心とした景勝地である。幅100mの平坦で滑らかな溶結凝灰岩の岩盤からなる川床が長さ2km続いている。岩盤には所々に割れ目があり、増水期には流れる水が白い波を立てることから、この様子を花に見立てて花瀬と名付けられました。



フジ、サクラ、カエデ、ツツジなどの名所。毎年花の季節には多くの人々が訪れます。

■島津家お茶亭跡
 薩摩藩主 島津氏ゆかりの史跡として、田代地区の花瀬に残るお茶亭跡は、十九代 光久、二十四代 重年、二十八代 斉彬が春先の桜の頃来遊し、花瀬川の流れの淵で詩歌を詠み、酒を飲む雅な行事「曲水の宴」の際に使用していたものと伝えられ、当時の花瀬川周辺の様子が三國名勝図会に描かれています。花瀬神社や花瀬川の石畳など今日もその姿をとどめています。

■扇落としの滝
 花瀬川の上流にあり、昔、島津のお殿様が訪れた際、この滝の美しさに驚き、持っていた扇を思わず滝に落としてしまった事が、この滝に付けられた名前の由来です。



■花瀬神社
 花瀬川下流にあり、「華瀬神社」と書くこともあったという。神社は川と川に挟まれた土地にあり、鳥居はその土地の先端にある。地元でも知る人ぞ知る、神秘的な場所です。



